大野台公民館文化部
海洋学講演

「サケの一生」

～海の小さな命と地球のふしぎ～

日時：2026年 **7月26日**（日）
午後２時～４時（開場１時３０分）

会場：大野台公民館　大会議室

定員：**６０名（先着順）**

受講料：無料

申込み：**6月5日（金）**午前９時より定員になるまで。公民館窓口および電話にて受付。

問合せ：大野台公民館　042-755-6000

概要「海をめぐる壮大な旅
サケとともに覗いてみる海洋学の世界」
川に生まれたサケの一生をたどりながら、海のしくみをわかりやすく、そしてダイナミックに解き明かす。

講師
乙部（おとべ）　弘隆（ひろたか）氏
（元東京大学海洋研究所講師
・理学博士）

木もれびの森　大野台公民館

相模原市南区大野台 5-16-38　https://www.sagamihara-kouminkan.jp/oonodai-k/

概要「海をめぐる壮大な旅 ― サケとともに覗いてみる海洋学の世界」

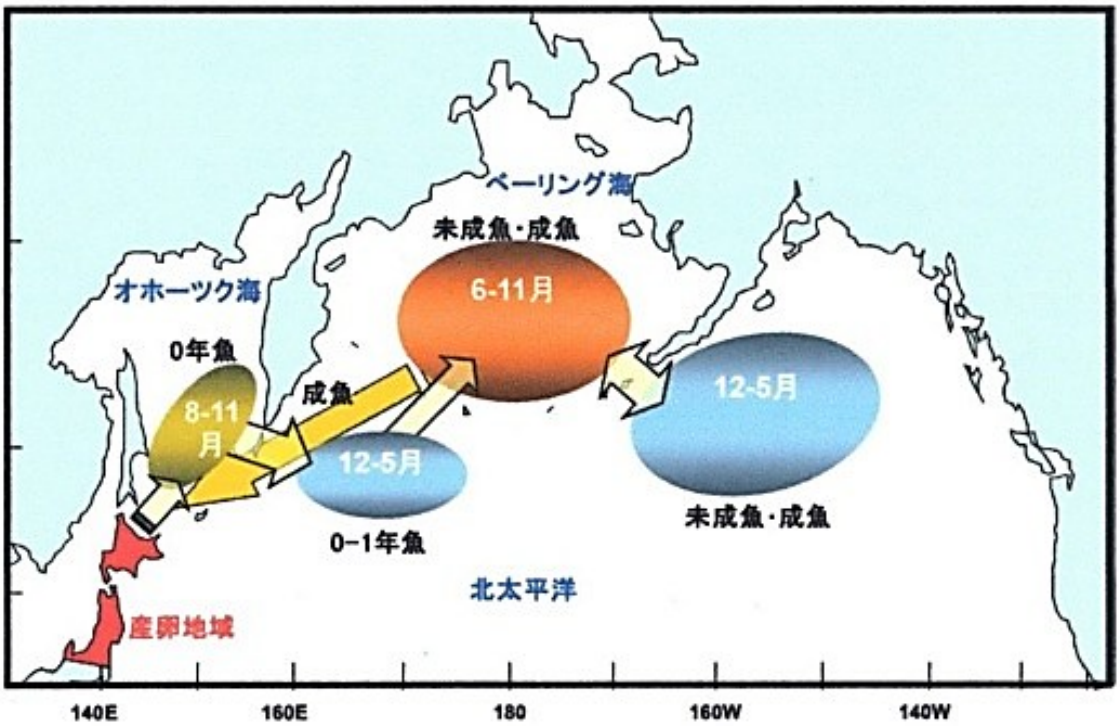
海洋学は、物理・化学・生物などの“総合科学”。

本講演では、岩手県大槌町の川に生まれたサケの一生をたどりながら、海のしくみをわかりやすく、そしてダイナミックに解き明かします。

数センチの稚魚が川を下り、海へと旅立つ瞬間――そこには「浸透圧」や海水の化学成分という精緻な科学が潜んでいます。やがてサケは親潮に導かれ、オホーツク海、太平洋、そしてベーリング海へ。数千キロにおよぶ回遊の背後には、海流の大循環、水温の季節変化、そして豊かな餌環境という地球規模のシステムが広がっています。

そして数年後、サケは生まれた川へと奇跡的に帰還し、命を次世代へとつなぎます。その後の死は終わりではなく、新たな始まり――その命（死骸）は多くの生物の餌として受け継がれ、やがて分解されて海へ戻り、植物プランクトンの栄養となります。ここに見えるのは、生命と物質が循環する壮大な「地球の営み」です。

さらに本講演では、東日本大震災から 15 年を迎えた今、岩手県大槌町にある東京大学の沿岸研究拠点が受けた津波被害の実像をスライドで紹介し、自然の力と人間社会の関わりについても考えます。



日本系サケの回遊経路の推定図（東屋 2013）より